

■□■第11回鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会 議事概要■□■

日時：平成26年12月9日（火）14:45～16:15

会場：大崎市鎌田記念ホール会議室

(発言者) ●委員
○事務局

1. 鳴瀬川水系河川整備計画【大臣管理区間】の進捗状況について

＜事務局より、資料1 鳴瀬川水系河川整備計画の変更、資料2-1 鳴瀬川水系河川整備計画【大臣管理区間】の進捗状況、資料2-2 鳴瀬川水系河川整備計画【大臣管理区間】の進捗状況 鳴瀬川総合開発事業について、説明＞

- 委員：ダム検証された筒砂子ダムと漆沢ダムによる容量再編の案で進むか。
- 事務局：ダム検証を具体的にするため、調査を進めている。検証のものとは変わるものがあるが、この後整備されていくということではなくて、その精度を高めて行っている。

- 委員：筒砂子ダムの環境アセスの中にアユに対する影響みたいなものを入れて頂く余地はないか。
- 事務局：今は、アユがいるかとかを確認している。アセス実施方法については先生方のご意見を伺いながら実施したいと思っている。

- 委員：筒砂子ダムの貯水容量は、1/10などの渇水でも貯まるのか。水文調査のところで利水容量が貯まるという検証をしてほしい。もし万が一貯まらないのであれば漆沢ダムの利水部分を残せるような柔軟な対応があってもいいのではないか。
- 事務局：1/10 渇水でも融雪で回復するということを確認している。漆沢ダムの水文データをとっていき、精度を高めていく。

- 委員：河川の濁質のなかには資源があり大事にしようという考え方がある。ダムができて流域由来の濁質を何とか上手に流せないか。資源としての濁質、海を育てるダム、農業、ダムの堆砂を上手に利用するという方向での環境の見直し、管理の在り方を検討してほしい。
- 事務局：先生方に教えていただきながらダムの在り方を検討していく。堆砂に関しては全国の事例を集めて今後検討していきたい。

- 委員：温暖化により洪水が新たなステージに入ったとあるが、その検証があるのか。あるとすれば、これから計画を変えるという段階に来ているのか。

- 事務局：確たるデータがあつて新たなステージに入ったというものはない。雨が大きくなつた場合に整備計画を変える可能性もでてくる。全国的にも雨が大きくなれば整備計画を見直す必要があるかもしれない。
- 委員：地方によって違うので東北地方独自に調査する必要がある。
水が貯まるのかというチェックに合わせて、そういう変化も合わせて検証した方が良いのではないか。
- 事務局：最近、平成 20 年くらいから降雨のトレンドが変わっている可能性があるので、先生方に相談させて頂きながら考えていきたい。
- 委員：筒砂子ダムに水が貯まりにくいと水温、濁質の問題が、出てくると思います。アセスを進める上ではそのあたり、慎重に検討していく必要がある。対策としては結構費用がかかるものがあるし、筒砂子ダムはどういうのがベストなのかを検討していくといい。
- 委員：ダムが完成するまでには相当年数がかかる。その間に地球温暖化の問題が出てくると、融雪の時期と、一番水を使う田植えの時期が乖離する。このときに水を供給するためには、ダムのようなものが必要だと考えている。ゲリラ豪雨も多くなるのか、これらのことを考慮して色々検討頂きたい。
- 座長：南北上運河の堆砂に関して具体的な対策はあるのか。
- 事務局：堆砂対策に関して、事業範囲のなかでは対策が難しい。治水上有利、必要なことはないかと、他機関ができることを含め協力していく模索をしている。
- 委員：ダム湖に外来種が入らないような配慮を検討してほしい。
- 座長：専門家の意見を聞きながら是非加味して頂きたい。

2. 鳴瀬川水系河川整備計画【知事管理区間】の進捗状況について

＜事務局より、資料 3 鳴瀬川水系河川整備計画【知事管理区間】の進捗状況、説明＞

- 委員：ダムの存在が自然をあるいは、産業を守るという観点を理解してもらうためにも、環境アセスというものを大切に広く周知をさせていって欲しい。
- 委員：大崎市は内水の問題が、まだまだ大きい。洪水の常習地帯というイメージを払拭できる河川整備をやっていって欲しい。

- 座 長：貞山運河が、津波被災際に減災にある役割を果たしたのではないかという事で検討されているが、東名運河、北上運河はどうだったのか。検討はされているか。
- 事務局：北上運河、東名運河にも、歴史への配慮を行う形で災害復旧に取り組んでいる。津波の減災効果にどのように貢献したのかは存知上げてない。
- 座 長：前段の直轄の際にご発言して頂いた事が、県管理についても関わることでございまして、十分な議論が出来たと思いますので、以上を持ちまして終わらせて頂きたいと思います。